

飲料買って社会貢献

【足寄・広尾】飲料水などの購入で、誰でも気軽に社会貢献を。足寄、広尾両町の民間企業がそれぞれ、売上金の一部を犯罪被害者などの支援団体を支える資金に充てる寄付型自動販売機を設置した。

「地域支援の一環」で

斉藤井出建設

足寄町の斉藤井出建設(斉藤和之社長)は、本社(町南6)と郊南モータープール(町郊南1)、帯広支店(幕別町札内共栄町19)の屋外に設置した自動販売機各1台、計3台を寄付型とし、11月から飲料水メーカーと順次契約を交わした。

寄付金は、公益社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンター(札幌)から北海道公安委員



設置された寄付型自動販売機(足寄)

足寄・広尾の2社 寄付型自販機

会が指定した犯罪被害者や交通事故被害者などの支援団体に贈られる。本別署(中野浩一署長)管内で設置したのは同社のみ。

同社は経営理念で地域づくりに貢献するとしており、瀬戸隆夫工事部次長は「地域支援活動の一環で設置を決めた。今後も、災害対応はもちろんさまざまな地域貢献を続けていきたい」と話している。

「被害者の役に」

ヤマグチ

広尾署(松田伸一署長)管内では、広尾町の車両販売・整備業「オートサービスマグチ」(山口悟社長)が町並木通東3の本社玄関口脇に寄付型自動販売機を設置した。

山口社長は帯広地区安全運転管理者事業主会の副会長を務め、交通事故防止を呼び掛けていることから、「凶悪な事件や悲惨な交通事故で心を痛めている犯罪被害者のために少しでもお役に立つことができれば」と話している。

(折原徹也、松村智裕)